

★徳島 <http://za-house.com>

ZA Tokushima House プロジェクト 4人の建築家と2人のクリエイターが協働する家づくり

異業種の仲間での協働

ZA Tokushima House プロジェクトは、4人の建築家と2人のクリエイターが家づくりのために協働する活動で、2012年にスタートしました。もともと徳島在住の建築家4名（伊月善彦、内野輝明、松田公彦、鳥羽知夫）が「公共建築学団：as band」というユニットを結成しており、ビジネスには直結しない社会貢献的な提案やワークショップを行っていました。4人の建築家はそれぞれ作風も異なる

個性的な面々ですが、互いに敬意を払い、ピュアに協働できる信頼関係があり、「4人が1軒の家を設計するのは面白いよね」という発想が、このプロジェクトの原点となっています。他に参加しているコピーライターである私やWebデザイナーの石井清は、一般的には広告の役割にのみ終始しますが、メンバーの一員になることで、建主の代弁者として消費者目線の新しい取り組みができるのではないかと考えました。集まった

6名の仲間が業界の垣根を越えてさまざまな議論を重ねるうちに、この議論こそが、実は建主にとっていちばん知りたい情報なのではないだろうか、と気づきました。建主を巻き込み、時にはゲストも交え、座して語り合いながら自分仕様の家をつくる。そういう家づくりもあってよいだろうというのが、僕たちの基本姿勢です。**3つの基本コンセプト**
「ZA」というネーミングには、「Z to A」

つまり家づくりの「いろは」を掘り下げ横断的に関与していく意志と、「座」して語り合うことを大切にしたい思いを込めています。僕たちがめざす家づくりのコンセプトとして、以下の3つを掲げました。ひとつ目は「アース・コンシャス」。徳島の気候風土から生まれてくる家、省エネルギー時代に機械ではなく建築の手法で向き合う家など、徳島人として、現代人として、地球人として、心体ともに心地よく暮らせる家づくりを模

索・提案することです。ふたつ目は「デザイン・コンシャス」。つくり手が机上で想定した誰かのためのデザインではなく、建主自身の仕様に基ついたデザイン。そのカタチを、建主も含めたフラクナ意見交換の場「座」から導き出すアプローチです。3つ目は「コスト・コンシャス」。何にお金をかけて何でコストカットするかを判断できる情報や選択肢を積極的に提供し、限られた予算でもライフスタイルと共鳴する快適な家を

もつことができることを発信したいと考えています。**第1号邸「あらわしの家」**
ご主人は、建築家に依頼し「オンリーワンの家」を建てたいとお考えをおもちでしたが、奥様は「デザイン優先で住みにくい家」になるのではないかと心配されていました。「建築家が4人もいらつしゃるのなら、妻の不安もなんとかなるかな」ということで、ご主人よりお声がけいただきました。建主Mさんとメン

バーとの「座」を重ねるうちに、奥様の不安も解消されたようで、その後は順調に進行していきました。マスターデザインは伊月が担当。完成見学会時に開催された公開の「座」で、はじめて試みた4人の協働について「僕ひとりだけじゃ『あらわし』を提案しきれたかどうか分かんない。みんなの意見を聞いて、やっぱり大丈夫かって自信をもてたから提案できました。4人がよい意味でちよつとずつ遠慮して、みんなの意見に敬意

を払ったようなところがあって、それがよい方向に落ちついていったと思います」とのコメントがありました。内野は、「みんなで考えて、考え抜いたら、デザインが消えてエッセンスが残った感じ」と協働の成果を語りました。建築家に依頼したいが不安がある方や、カンカンガクガク話し合いながら楽しみつづ家をつくりたい方に、このプロジェクトは有効であることを改めて実感しています。（新居篤志）

「あらわしの家」2階LDK。木の暖かみを感じられる空間になるよう、外断熱構法を用いて室内はすべて構造材現しとしている。

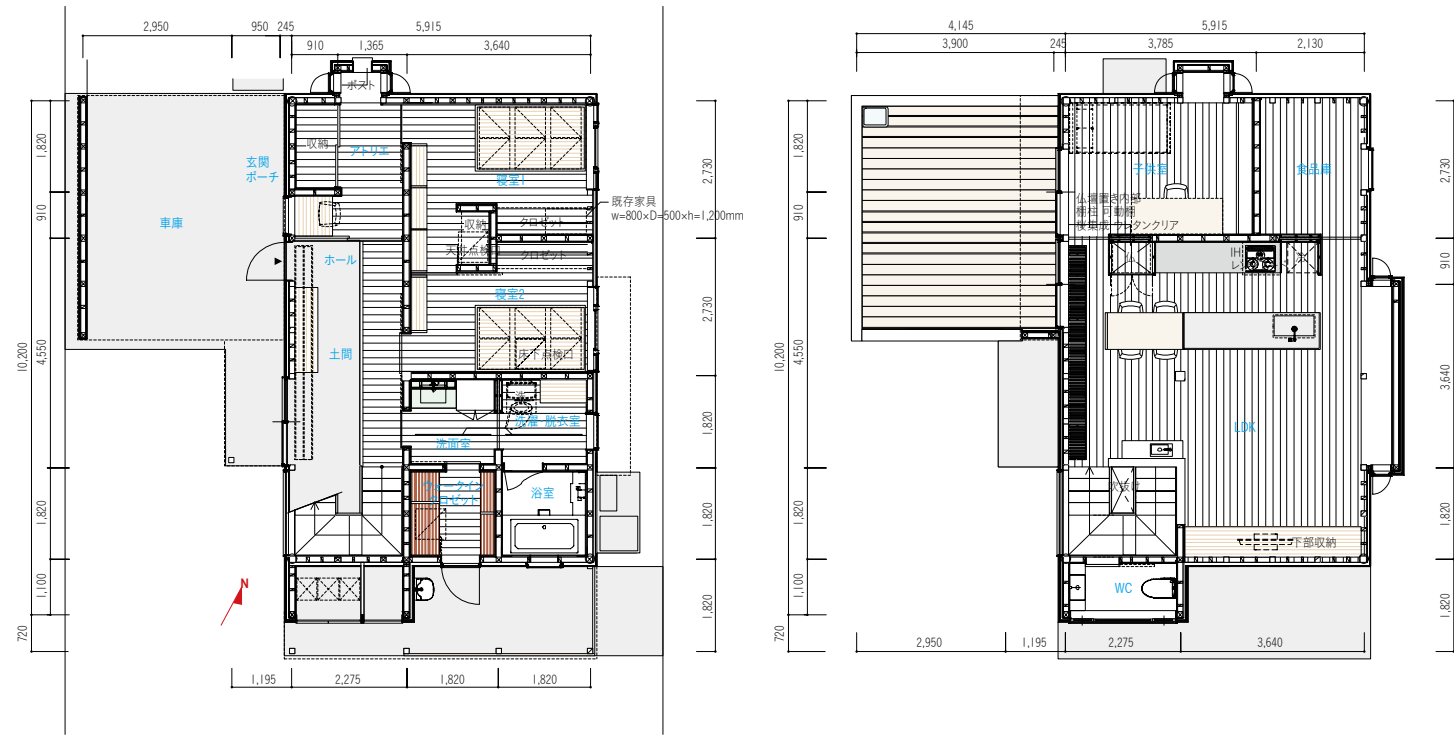


1. 「あらわしの家」完成見学会のパンフレット。／2. 建主のMさん親子（後列）と4人の建築家。前列左から、伊月さん、内野さん、鳥羽さん、松田さん。／3. 2012年2月に行われた「座」キックオフ。／4. 2012年3月、他業種の方との勉強会として若手不動産屋さんに行った「座」。／5. 2013年7月、Mさんと現場監督と現場での打ち合わせの様子。／6. 2013年8月、完成見学会の日、メンバー、Mさん、見学者の方々が参加した「座」。



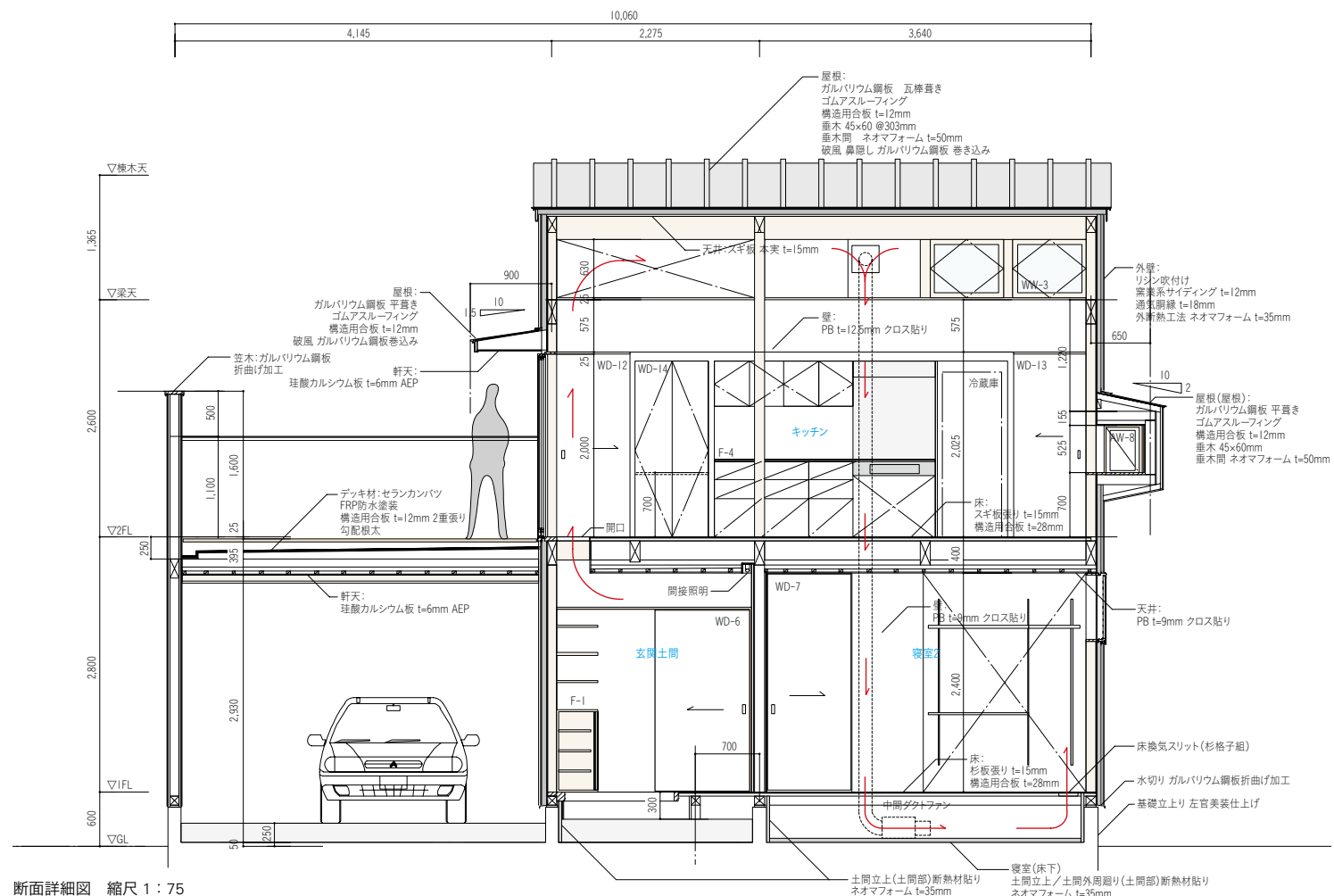
あらわしの家.....ZA Tokushima House プロジェクトで手掛けたはじめての作品

当初より、建主のMさんご夫妻は寒い家を希望されていたこともあり、いわゆるIV地域で求められる性能より少し厳しく計画することにした。ただ「ガチガチに武装した断熱仕様の家」にはしたくなかった。屋根を含む五面を外断熱仕様とし、室内は壁を仕上げず、壁内を柱や間柱の見える「あらわし」とし、視覚的にも温かみのある木質空間をつくった。今後は光熱費の明細書の保管や室内環境の数値的な記録などをMさんをお願いして、感覚的な住み心地とともに意見交換する「座」を定期的に開催し、以降のZA Tokushima House プロジェクトの家づくりに繋げていければと考えている。内部空間は「個」の居場所を大事にしつつも、立体的に緩やかな繋がりを感じられるような構成とした。玄関と土間に沿った長い縁台のような上がり口は、育ち盛りの息子さんと、バイクなどのアウトドアライフを楽しむご夫婦の、外との繋がりを広げる仕掛けである。（伊月善彦 内野輝明 松田公彦 鳥羽知夫／公共建築学団 as band）



1階平面図 縮尺 1 : 150

2階平面図

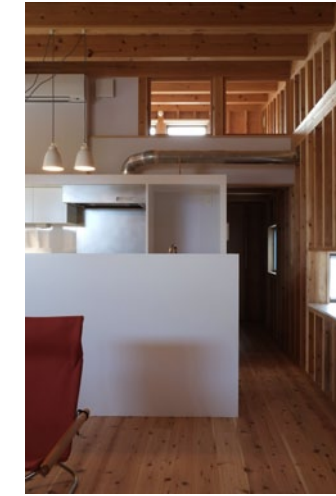


断面詳細図 縮尺 1 : 75



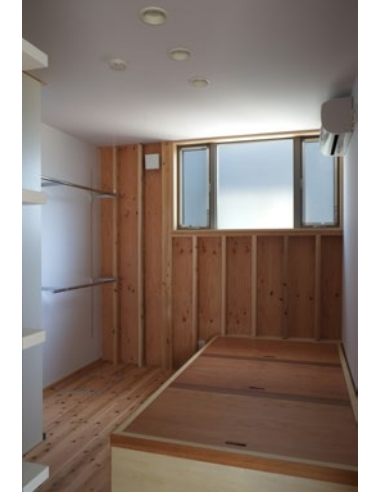
西側外観。右下が玄関ポーチ。

LDKから北側を見る。突き当たり奥には食品庫。上部にロフトが設けられている。



機器・構成部材とも必要最小限で機能的に納めたキッチン。

1階寝室2。収納を兼ねたベッドがつくり付けられている。



約6.4mの土間が設けられた玄関ホールは、アウトドアの趣味を楽しむための空間としても機能する。



あらかしの家

所在地 徳島県阿南市
 主要用途 専用住宅
 家族構成 夫婦+子1人
 企画 ZA tokushima house
 (伊月善彦 内野輝明 松田公彦 鳥羽知夫 新居篤志 石井清)
 設計 as band 担当/伊月善彦 内野輝明 松田公彦 鳥羽知夫
 施工 鳥出建築事務所 担当/岩井三郎
 主体構造・構法 木造軸組構法
 階数 地上2階
 敷地面積 215.68㎡
 建築面積 90.37㎡
 (建蔽率41.90% 許容60%)
 延床面積 129.50㎡
 (容積率60.04% 許容200%)
 地域地区 市街化調整区域
 設計期間 2012年4月~2013年2月
 工事期間 2013年3月~2013年8月
 外部仕上げ
 屋根/ガルバリウム鋼板瓦葺き
 外壁/3x10防火サイディング+弾性リシン吹き付け
 内部仕上げ
 LDK
 床/スギ無垢フローリング t=15mm
 壁/構造用合板+柱・間柱 スギ現し一部クロス貼り
 天井/スギ無垢材白染色

写真提供/ ZA Tokushima House プロジェクト